

中東における「強いリーダー」の統治スタイル： 強権支配の現状と課題

著者	土屋 一樹
権利	Copyrights 日本貿易振興機構（ジェトロ）アジア 経済研究所 / Institute of Developing Economies, Japan External Trade Organization (IDE-JETRO) http://www.ide.go.jp
雑誌名	IDEニュース
巻	3
ページ	2-3
発行年	2018-12
出版者	日本貿易振興機構アジア経済研究所
URL	http://hdl.handle.net/2344/00050634

中東における「強いリーダー」の統治スタイル

——強権支配の現状と課題——

土屋 一樹

毎年4月中旬、夏期講座のテーマ募集が始まる。中東研究グループでは、中東に関するコースを企画することが恒例となっており、どんなテーマにするか話し合う。夏期講座ではコースごとに共通テーマを設定することが求められるので、各講演者が好き勝手に話をするわけにもいかず、互いの専門分野を勘案しながらアイデアを出し合う。

近年のテーマを振り返ると、各国の政治動向と開発構想を取り上げたものが多い（表1）。「アラブの春」後の政権運営と発展の方向性を見定めることに関心が向いていたと言えそうだ。

●今年は政治リーダーに注目

中東諸国の多くは、「アラブの春」以前よりもいっそう強権体制になっている。なかでも、サウジアラビア、トルコ、エジプトでは、大きな権限を持った強いリーダーが現れ、政治と経済の両面で改革に着手している。

そこで、今年の夏期講座では政治リーダーに焦点を当て、その統治と不安要因を考察することとした。共通テーマを「中東における強いリーダーの統治スタイル：強権支配の現状と課題」とし、上記3カ国にUAEを加えた計4カ国について、リーダーの強さの源泉、何を重視した統治が行われているのか、不安要素は何かなどを論じた（表2）。

表1 中東研究グループの企画した夏期講座のテーマ

年	テーマ	対象国	参加者数
2013	「アラブの春」：夢と現実	エジプト、シリア、チュニジア、トルコ、GCC 諸国	87
2014	体制維持と指導者選出	アルジェリア、イエメン、エジプト、トルコ、GCC 諸国	61
2015	中東諸国における新政権とその課題	イエメン、チュニジア、トルコ、GCC 諸国	74
2016	中東の地域大国が描く将来像	エジプト、サウジアラビア、トルコ、UAE	90
2017	政府と企業から読み解く中東のいま	エジプト、クウェート、トルコ、UAE	78

（出所）筆者作成。

表2 2018年夏期講座（中東）：中東における「強いリーダー」の統治スタイル：強権支配の現状と課題

	各講義のトピック	講師
1.	サウジアラビア内政：社会変容と経済改革の見通し	石黒大岳
2.	UAE：開発政策の展望	齋藤純
3.	トルコ：強い指導者としてのエルドアン大統領	今井宏平
4.	エジプト政治：エジプトの「強いリーダー」アブドゥルファッターフ・エル・サイーシー	ダルウィッシュ・ホサム
5.	エジプト経済：政権主導による経済開発の隘路	土屋一樹

（出所）筆者作成。

●リーダーの統治

今年の講座で取り上げた4カ国の政治体制は、サウジアラビアとUAE（の各首長国）は君主制、トルコとエジプトは共和制となっている（表3）。いずれも中東諸国の典型的な統治形態と言えるだろう。

では、以下で今年の各講義の要旨を紹介する。

サウジアラビアでは、国王の息子であるムハ

ンマド皇太子の下で長期開発目標「ビジョン2030」が策定され、積極的に社会経済改革が進められてい

る。その一方で、活動家や実業家を拘束するなど強権的な統治が顕著となった。皇太子への権力集中は迅速な改革実施には有効だと考えられるが、サウジ政治の伝統だった合意形成を軽視することで、体制の安定性を揺るがしかねない。

UAEのアブダビ首長国では、首長の異母弟ムハンマド皇太子が実権を握り、経済開発を主導している。アブダビ首長国は石油資源に恵まれ、その富を活用する政府系企業が中心となって経済開発が進められている。その目的は産業多角化であるが、石油価格の動向が成否を分ける要因となる。

トルコは今年6月の大統領選挙をもって大統領制に移行した。その選挙で再選したのがエルドアンで、強大な権力を得た。しかし、同時に実施された議会選挙では、エルドアン率いる公正発展党による過半数議席の獲得には至らず、さらに同党の得票率は前回から7%減少した。ダブル選挙によってエルドアン大統領は絶大な権力を得たものの、国民の二極化が顕著となった。

エジプトでは、2014年に就任し今年3月に再選されたシースィー大統領による強権支配が確立された。軍を基盤とするシースィー政権は、反対勢力を弾圧することで政局を安定させ、大胆な経済改革で経済回復への端緒を開いた。しかし、今年の大統領選で元軍高官による対抗の動きがあったこと、また国内民間企業の低迷など、シースィー体

表3 各国の政治体制と実権を握るリーダー

	政体	議会	政党	リーダー	生年
サウジアラビア	君主制	諮問評議会 (立法権なし)	なし	ムハンマド・ビン・サルマーン皇太子	1985年
UAE	連邦制 (君主制)	諮問評議会 (立法権なし)	なし	ムハンマド・ビン・ザーイド・アール・ナヒヤーン皇太子	1961年
トルコ	共和制	一院制	複数政党制	レジェップ・タイイップ・エルドアン大統領	1954年
エジプト	共和制	一院制	複数政党制	アブドゥルファッターフ・エル・シースィー大統領	1954年

(出所) 筆者作成。

表4 強いリーダーによる統治

	強さの源泉	リーダーが重視するもの	不安要素
サウジアラビア	国王の支持	社会構造変化への対応	合意形成の欠如, 改革停滞
UAE	国王の支持	経済開発	石油価格の動向
トルコ	国民の支持	経済立て直し	国民の二極化
エジプト	軍を掌握	治安と経済開発	軍の挑戦, 政府主導の開発

(出所) 筆者作成。

制を揺るがしかねない不安要因も抱えている。

以上のように、各国では、皇太子あるいは大統領が絶大な権限を握り、強権的な統治と改革を推進している。しかし、その体制は必ずしも盤石ではなく、それぞれに不安要因も抱えている(表4)。

●今後のテーマ

あらためて中東研究グループによる夏期講座を振り返ると、シリーズもののようにも見える。毎年テーマを設定するときは、前年までのテーマとの連続性を意識することはなく、その時々現状理解に役立つような視点を提示することを考えている。しかし、結果として中東研究グループは、各国政府の動向と政策の方向性に注目し続けているようだ。それは、我々が設定できるテーマの限界を示しているとも言えるが、特色でもあると捉えたい。今後も中東研究グループらしい視点で、夏期講座を企画していきたい。

(つちや いちき／アジア経済研究所 地域研究センター)